

今年度の活動計画・予算等審議決定の経過について
—理事会にて代替審議・決定いたしました

当会では毎年5月に「総会」を開催し、前年度の活動報告・決算報告並びに新年度の活動計画・予算案等を、会員の皆様にお諮りしてきました。

今年も昨年同様、新型コロナウイルスの状況に鑑み、総会及び講演会(例年総会に併せ開催)を延期とさせて頂きました。

当会規約によれば、本来総会は次の事項を決議することになっております。

- ①前年度の活動報告及び会計報告、②当該年度の活動計画及び予算、
③会規約の制定又は変更、④理事及び監事の選任(注=④は2年に1回、今年度は非該当。)

然しながら、総会を延期とした関係から、昨年当会規約を変更して、理事会で総会の代替審議・決定ができるようにいたしました。(但し、直近の総会での追認決議を要することにしております。)

同改正に基づき、これらを一括審議・決定する理事会を本年7月31日(土)14時からオンラインにて開催いたしました。承認された議案書(全文)を掲載いたしましたのでご覧ください。

なお、今年度の活動計画につきましては、新型コロナウイルスの状況から、各種行事等の開催予定が立てにくい状況にありますので、前年度の活動内容をほぼ踏襲するという考え方で作成いたしました。

また、役員人事につきましては、今回は改選期ではございません。現状の役員名簿をご参考までに以下に掲載いたします。

《 いちごえ会 役員名簿 》

注= 任期は2022年度総会終了時まで
摘要欄に特記ある場合以外、氏名は五十音順

役 職	氏 名	摘 要
会 長	増村幸子	
副会長	保手希一郎、村田雅英、後藤香代	
理 事	渋谷泰幸、田中隆治、林 京子、三輪敏彦、 武藤和義、茂木 稔、山本能理雄	事務局担当理事=山本能理雄 事務局長=三輪敏彦
監 事	五十嵐京子	
顧 問	上田 敏、安仁屋衣子、小山 茂、緑川 晶	就任時期順

以 上

第 1 号議案 2020 年度 活動報告

新型コロナウイルスのまん延と脅威の中で、“人と人が集うことがリスク”とされ、それを徹底して控えなければいけない状況の中、従来の様な行事や活動は殆どできなかった。

然しながら、当初緑川先生(当会顧問)から紹介された、オンラインツールである Zoom の活用を模索するとともに、当会の設立 10 周年を控えて今後の会のあるべき姿を検討するための会員アンケートを考えたりといった、新たな工夫と内省の言わば“雌伏の 1 年”であった。

なお、オンラインツールの活用は、場所の移動が厳しい当事者・家族のみならず、全ての会員や関係者にとって“物理的な距離は障害にならず、移動が不要である”という新たな可能性をもたらし、今後の活動に十分有益なものであると体感できた。

-----<<基本方針>>-----

■会の目的 : 高次脳機能障害者が生き甲斐を持って働き、生きる場所をつくる

■基本姿勢

- ・会員(当事者や家族)が問題を一人で抱え込まず、かつ孤立しないように、会員同士で助け合うための仕組み・体制を拡充する。
- ・高次脳機能障害者に対する理解を広げるために、情報を広く発信するとともに、行政・地域や他団体・専門家等との連携を深め、サポートの輪を広げる。

■活動計画

◇重点的活動

- ・親(又は妻、家族等)亡き後への取組を推進する **住む**・**生活をケアする**
……当事者が支援付きの一人暮らしができる住居・施設(高次脳機能障害者に理解の深い支援者のいるグループホームやケア付き住宅等)の建設・運営事業等の創設に協力し、優先利用・入居ができるようにする。
- ・当事者の働く場を創り、社会復帰をサポートする **働く**・**就労支援する**
……“カスタマイズ就業”(人に仕事を合わせる、特注の仕事を見つける・なければ作る)の考え方に立って、就職(障害者枠、一般)、就労(カスタマイズ作業所又は既設の作業所)、自営等様々な働き方をサポートする。

◇継続的活動

- ・「相談会」「交流会」「茶和会」の“三本の矢”を主体に、当事者や家族のサポートや交流を深める。

1. 情報の発信

[目的…当会と高次脳機能障害への理解を広げる]

◇会報の発行…延べ 2 回(第 25 号、第 26 号)。各 900 部程度発行。

(第 25 号: 2020 年 9 月 25 日、第 26 号: 2021 年 3 月 20 日)

会員以外に自治体、関係団体・施設、支援者等へ毎回 500 部程度送付。

◇外部からの協力要請・ヒアリング等に対し積極的に対応し、高次脳機能障害と当会活動への理解を広げるべく努めた。例として、

■小金井市行事への参加

- ・2020 年 12 月 5 日(土) 障害者週間の展示
- ・2021 年 3 月 7 日(日) 市民活動まつり: 展示は行わずブログ掲載のみ。ブログ開設期間は 2 月初旬から概ね 1 年間。(当会 HP へのリンク中心)

■中央大学・緑川ゼミ

- ・2020年8月18日(火)、9月2日(水) オンラインインタビュー(当会3名)
- ・2021年2月20日(土) オンライン交流会[関恵子先生の講演を含む](当会11名)

◇HP(ホームページ)・メルマガ・フェイスブックを通じて、活動報告、会報、上田先生の講演等の情報発信に努めた。

2. 講演会の開催

[目的…高次脳機能障害への理解を広げるとともに、会の問題解決力を高める]

◇例年、総会に引き続き開催していたが、コロナ禍で延期した。

3. 相談会の開催

[目的…専門的立場から会員の問題解決にアドバイスし、会員と家族を支援する]

◇当会顧問・上田敏先生による「相談会」を、オンラインにて1回(1名、相談会は初めて)実施した。(希望制・会員無料)

本来ならば「当事者の話や様子を直に聞き見ながら対応することが望ましい」(上田先生)が、緊急性も勘案してオンラインで実施したものの。

4. 交流会の開催

[目的…会員及びご家族の交流を通じ、相互の経験や知識の輪を広げる]

◇当事者会員による「交流会運営委員会」の企画・運営により、オンラインで2020年12月20日(日)に開催した(第21回)。参加者は22人。(運営員会もオンラインにて2回開催)

◇恒例のクリスマスフェスタであり、自己紹介・近況報告の第1部に続き、第2部では中央大学・緑川ゼミ生の方々の考案によるオンラインビンゴゲームで皆さん楽しまれた。島根県出雲市から初参加の会員さんによるクイズもあった。

5. 茶和会(「和」です)の開催

[目的…当事者をサポートするご家族の交流を通じ、経験・悩み等を理解、共有する]

◇会員のご家族の企画・運営により、オンラインで延べ2回実施。(ご家族に限定せず、自然な形で当事者も参加されている。)

- ・2020年10月10日(土) 第18回 : 参加者6名
- ・2021年2月20日(土) 第19回 : 参加者11名

6. 新施設建設に向けた勉強会

[目的…高次脳機能障害者が生き甲斐を持って働き、生きる場所をつくる]の実現]

◇“カスタマイズ就業”とグループホーム(ないしケア付き住宅)が一体となった施設の建設・運営に向けた勉強会を、前年度まで延べ23回行っていたが、2020年度はコロナ禍で集まることが出来なかつただけではなく、オンライン実施するためには資料の事前回付・相互検討などが難しいことから、結果的に休止とならざるを得なかった。

7. 専門家とのネットワークの拡充、講習会等への参加

[目的…障害・福祉・法律・保険等分野の専門家とのネットワークを拡充するとともに各種講習会等に参加・学習して、会の問題解決力・会員へのサポート体制を高める]

◇講習会・学習会等への参加例として、主催者名を以下に記載。

東京都、小金井市、調布市社会福祉協議会、中央大学、東京高次脳機能障害協議会(TKK)、東京慈恵会医科大学付属第三病院

8. 行政・地域・他団体との交流、連携推進

[目的…設立趣旨が同じ他団体や福祉NPO等との連携を通じ、高次脳機能障害者に係る福祉行政の拡充を推進し、また地域の理解・協力体制を深める。]

◇小金井市主催行事への積極的参加並びに小金井市障害者福祉センターからの協議依頼に対応した。

◇当会会員によるNPO法人「萼」(うてな)での運営ボランティアはコロナのため休止中。他団体への就業を1名斡旋、成約となった。

◇株式会社 gene 主催行事に協力。

・2020年11月17日(火)：当会顧問の上田先生と鈴木大介さん(『脳コワさん支援ガイド』著者)との対談 【Zoom 配信】「高次脳機能障害の当事者は何に困っているのか」

9. [会務] 規約改正、オンラインツールの整備等

◇コロナ禍で総会の開催を延期した関係から、当会規約を変更して、理事会で総会の代替審議・決定ができるようにした。(但し、直近の総会での追認決議を要することになっている。)それを審議・決定した7月5日(日)の理事会は、初の「オンライン開催による理事会」となった。

◇オンラインツール整備の必要性から、有料の Zoom を導入した。

◇助成金については、申請時の計画通りの活動が出来無かったため、返還したものがある。(⇒東京都共同募金会[赤い羽根 B 配分]の助成金 30,000 円の全額。)

◇2022年6月に当会は設立10周年を迎えるが、それに向けて、当会の今後のあり方を検討するために、2021年3月28日付にて会員(当事者、家族及びそれ以外)に対し、郵送又はHPを通じてアンケートへの回答をお願いした。

以 上

第2号議案

2020年度 会計報告

1. 収支報告 (2020年4月1日～2021年3月31日)

【単位：円】

科目及び内訳	決算額	予算額	決算額備考
収入の部			
【会費収入】			
個人会員 @2,000×58名※1	112,000	130,000	※1 前年度中の入金4名分含む。
団体会員 1団体	2,000	15,000	
(小計)	114,000	145,000	
【事業収入】			
講演会参加費(会員以外)及び交流会等参加費(会会員)	0	15,000	
(小計)	0	15,000	
【助成金収入】			
(公益財団法人) 大和証券福祉財団	250,000		
(社会福祉法人) 小金井市社会福祉協議会	40,000	165,000	
(社会福祉法人) さくらファンド	40,000		
(社会福祉法人) 東京都共同募金会[赤い羽根B配分]	30,000		
(小計)	960,000	165,000	
【寄付金収入】			
(一般社団法人) パイロットインターナショナル日本ディストリクト※2	50,000	60,000	※2 「パイロットインターナショナル」の日本クラブで、旧名称は「東京桜パイロットクラブ」。
個人寄付(3名)	6,500		
(小計)	56,500	60,000	
【その他収入】 会場使用料のキャンセル戻し※3	3,360	0	※3 萌え木ホール(全額返金)分。
(小計)	3,360	0	
当期収入合計 ①	533,860	385,000	
前期繰越金 ②	△23,956	△23,956	
①+②	509,904	361,044	
支出の部			
【事業費】			
講演会費 [開催せず]	0	50,000	※5 リモートにて開催した行事については、直接的な支出は発生していない。共通の支出のZoom年会費は下記情報処理関係費に計上。
交流会費 [1回リモートにて開催] ※5	0	25,000	
相談会費 [1回リモートにて開催] ※5 ※6	0	15,000	
茶和会費 [2回リモートにて開催] ※5	0	12,000	
芋煮会 [開催せず]	0	30,000	※6 上田先生は謝礼を辞退されている。
「ほっとかふえ」[開催せず]	0	4,000	
新施設勉強会 [開催せず]	0	40,000	
(事業費計)	0	221,000	
【管理費】			
情報処理関係費 HP等管理委託費 ※7	82,110	110,000	※7 HP(ホームページ)及びML(メーリングリスト)等年間管理委託費60,000円及びZoom年会費22,110円の合計。
事務用品・消耗品費 プリンター用トナー、文具等	59,616	18,000	
通信費 会報他郵送料	40,094	57,000	
会費費 会場使用料 ※8	1,549	12,000	
会報制作費 印刷代(第25号・第26号)	17,530	45,000	
諸会費 年会費(小金井市社会福祉協議会)	15,000	15,000	※8 増村会長マンション集会所の使用料(諸口)。
旅費交通費 他団体主催講習会等参加用	0	6,000	
雑費 振込手数料、参考資料代等	8,617	5,000	
寄付金 小金井市社会福祉協議会	2,000	2,000	※9 東京都共同募金会[赤い羽根B配分]からの助成金の全額返金。
その他 助成金の返金 ※9	30,000		
(管理費計)	256,516	270,000	
当期支出合計 ② (事業費計+管理費計)	256,516	491,000	
当期収支差額 ①+②-③	253,388	1,072	
次期繰越金	253,388	1,072	

2. 財産目録（2021年3月31日現在）

【単位：円】

区 分	代 産	消 費
資産の部		
現金	7,269	
郵便振込部会	271,869	
郵便振付口座	0	
資産合計⑤	279,138	
負債の部		
加入団体年会費(東京都気象機能防災協議会：TKK)	10,000	2020年度分
会費等送付費(全夜前)	15,750	2021年3月30日分
負債合計⑥	25,750	
正味財産 ⑤-⑥	253,388	

上記の通り報告いたします。

代 表 増村 幸子 印 

監査の結果、適正に処理されていたことを認めましたので、報告いたします。

2021年6月/2日

監 事 五十嵐 京子 

以 上

第 3 号議案 2021 年度 活動計画

新型コロナの変異株が急拡大する懸念の中、“人と人が集う”行事や諸活動の再開時期は不透明である。2020 年度と異なるのはワクチン接種が進みつつあることだが、それを勘案しても当会が“かつての日常”に戻ることが出来そうなのは、早くも第 4 四半期(年明け)くらいからと思われる。

従って、活動の基本方針はこれまでのものを踏襲するが、個別の行事や活動内容については、オンラインツールを活用しうる分野は更に工夫を重ねていくとしても、総じて前年度並み程度の計画とならざるを得ない。

なお、本年 3 月末に発送した会員アンケート結果を踏まえ、当会の今後のあるべき姿を検討することも今年度の重要なテーマであると認識している。

-----<<基本方針>>-----

■会の目的 : 高次脳機能障害者が生き甲斐を持って働き、生きる場所をつくる

■基本姿勢

- ・会員(当事者や家族)が問題を一人で抱え込まず、かつ孤立しないように、会員同士で助け合うための仕組み・体制を拡充する。
- ・高次脳機能障害者に対する理解を広げるために、情報を広く発信するとともに、行政・地域や他団体・専門家等との連携を深め、サポートの輪を広げる。

■活動計画

◇重点的活動

- ・親(又は妻、家族等)亡き後への取組を推進する **住む**・**生活をケアする**
 ……当事者が支援付きの一人暮らしができる住居・施設(高次脳機能障害者に理解の深い支援者のいるグループホームやケア付き住宅等)の建設・運営事業等の創設に協力し、優先利用・入居ができるようにする。
- ・当事者の働く場を創り、社会復帰をサポートする **働く**・**就労支援する**
 ……“カスタマイズ就業”(人に仕事を合わせる、特注の仕事を見つける・なければ作る)の考え方に立って、就職(障害者枠、一般)、就労(カスタマイズ作業所又は既設の作業所)、自営等様々な働き方をサポートする。

◇継続的活動

- ・「相談会」「交流会」「茶和会」の“三本の矢”を主体に、当事者や家族のサポートや交流を深める。

1. 情報の発信

[目的…当会と高次脳機能障害への理解を広げる]

◇会報の発行…延べ 2 回 (第 27 号、第 28 号)。

◇外部からの協力要請・ヒアリング等に対し積極的に対応し、高次脳機能障害と当会活動への理解を広げるべく努める。

◇HP(ホームページ)・メルマガ・フェイスブックを通じて、行事案内、活動報告、会報等の情報発信に努める。

2. 講演会の開催

[目的…高次脳機能障害への理解を広げるとともに、会の問題解決力を高める]

◇前年度はコロナ禍で延期(結局開催を断念)したが、第4四半期(年明け)くらいの開催を模索していく。オンライン併用の形が取ればベストと考える。また、総会との関係も併せ検討の様あり。

3. 相談会の開催

[目的…専門的立場から会員の問題解決にアドバイスし、会員と家族を支援する]

◇当会顧問・上田敏先生による「相談会」を、オンラインにて随時実施する。これまで相談会を受けていない会員に配慮する。

4. 交流会の開催

[目的…会員及びご家族の交流を通じ、相互の経験や知識の輪を広げる]

◇当事者会員による「交流会運営委員会」の企画・運営により、オンラインで2回程度実施する。(状況により対面も併用。)

◇うち1回はクリスマスフェスタとして、中央大学・緑川ゼミ生の方々のご支援・ご協力をお願いしたい。

5. 茶和会(「和」です)の開催

[目的…当事者をサポートするご家族の交流を通じ、経験・悩み等を理解、共有する]

◇会員のご家族の企画・運営により、オンラインで2回程度実施する。(状況により対面も併用。)ご家族に限定せず、自然な形で当事者も参加されている。

◇昨年度開催できなかった「ほっとかふえ」(少人数による自由な語り・交流)は、可能ならばオンラインで1回実施する。

6. 新施設建設に向けた勉強会

[目的…高次脳機能障害者が生き甲斐を持って働き、生きる場所をつくる]の実現]

◇勉強会のオンライン化のネックとなった資料の事前回付・相互検討等の進め方を再検討する。なお、今後可能性のある実プロジェクトへのコミットについては、今後の当会のあり方を検討する中できちんと議論していく。

7. 専門家とのネットワークの拡充、講習会等への参加

[目的…障害・福祉・法律・保険等分野の専門家とのネットワークを拡充するとともに各種講習会等に参加・学習して、会の問題解決力・会員へのサポート体制を高める]

◇上記目的に沿って推進する。

8. 行政・地域・他団体との交流、連携推進

[目的…設立趣旨が同じ他団体や福祉NPO等との連携を通じ、高次脳機能障害者に係る福祉行政の拡充を推進し、また地域の理解・協力体制を深める。]

◇上記目的に沿って推進する。

9. 今後の当会のあり方の検討

◇2022年6月に当会は設立10周年を迎えるが、それに向けて、当会の今後のあり方を検討するために、2021年3月28日付にて会員(当事者、家族及びそれ以外)に対し、郵送又はHPを通じてアンケートへの回答をお願いした。

◇理事会において、同アンケートの内容、当会設立の理念・目的、当会の内部資源(マンパワー等)という3つの観点から、当会の今後のあり方を考え、年内には方向性を明確にしたい。

第 4 号議案 2021 年度 予算

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

【単位：円】

科目及び内訳	予算額	前期決算額
収入の部		
【会費収入】		
個人会員 @2,000×50名	100,000	112,000
団体会員 @5,000×1団体	5,000	2,000
(小計)	105,000	114,000
【事業収入】		
講演会参加費(会員以外)等	10,000	0
(小計)	10,000	0
【助成金収入】 1件	30,000	360,000
(小計)	30,000	360,000
【寄付金収入】 個人寄付、団体寄付	0	56,500
(小計)	0	56,500
【その他収入】 普通預金受取利息	0	0
その他	0	63,360
(小計)	0	63,360
当期収入合計 ①	145,000	593,860
前期繰越金 ②	279,138	△23,956
① + ②	424,138	569,904
支出の部		
【事業費】		
講演会費 [1回分] 謝金、会場費、ポスター、レゾ印刷代等	50,000	0
交流会費 [2回分] 会場費、保険料等【1回はオンライン】	10,000	0
相談会費 会場費等 (注)上田先生の謝礼見込まず	5,000	0
茶和会費 [2回分] 会場費等 【1回はオンライン】	3,000	0
「ほっとかふえ」[1回分] 【オンライン】	0	0
情報収集・勉強会 謝金、資料代等 【オンライン】	25,000	0
(事業費計)	93,000	0
【管理費】		
情報処理関係費		
HP 及 ML 等年間管理委託費	60,000	60,000
ウェブサーバー更新費用【3年毎】	13,794	13,794
Zoom 年会費	22,110	22,110
事務用品・消耗品費 プリンターインク代、文具等	20,000	59,616
通信費 会報他郵送料	25,000	24,344
会議費 役員会等会場使用料等	5,000	1,549
会報制作費 印刷代(第 27 号～第 28 号)	20,000	17,530
諸会費 TKK(10,000)、社協(5,000)	15,000	5,000
旅費交通費 他団体主催講習会等参加用電車・バス代等	5,000	0
雑費 振込手数料、参考資料代等	4,206	8,617
寄付金 小金井市社会福祉協議会	2,000	2,000
その他	0	90,000
(管理費計)	192,110	290,766
当期支出合計 ③ (事業費計+管理費計)	285,110	290,766
当期収支差額 ①+②-③	139,028	279,138
次期繰越金	139,028	279,138

以 上